

富谷市記者会見資料 1-①

令和 2 年 11 月 24 日

建設部都市整備課

担 当：佐藤

連絡先：022-358-0525

大清水地区で「ハンプ(凸部)」による社会実験を実施 ～通学路等の生活道路で自動車の走行速度を抑制～

富谷市では、国土交通省東北地方整備局の協力を受け、通学路を含めた生活道路における交通安全対策に反映させるため、可搬型「ハンプ(凸部)」を活用した自動車の走行速度を抑制する社会実験を行います。

国土交通省東北地方整備局が提供する「可搬型ハンプ」を使用した実験の取り組みは、宮城県内では富谷市が初めての実施となりますので、ぜひ取材していただきますようお願いいたします。

記

1. 設置日時 11月25日(水) 午前10時～
2. 実験期間 11月25日(水)～12月24日(木)
3. 設置場所 大清水一丁目3地先(市道大清水9-2号線)
(大清水一丁目第1公園入口付近。詳細は別紙のとおり)
4. 設置箇所数 1箇所

【経緯】あけの平地区・大清水地区周辺エリアの生活道路である市道あけの平6-56号線及び市道大清水9-2号線の一部は、車の最高速度が30キロメートルに規制されていますが、速度超過をする車両が通行車両の約90パーセントを占める現状となっております。

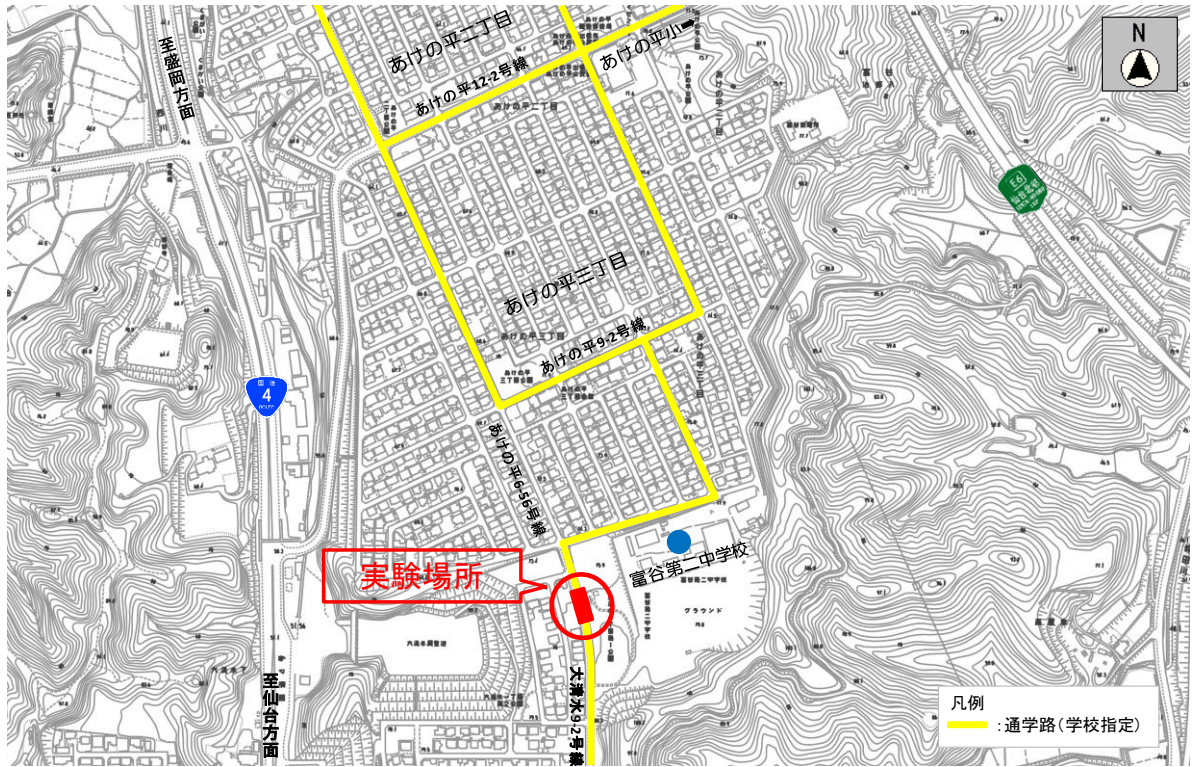
また、この路線は、並行する国道4号の渋滞を回避するための通り抜け道路として利用する事が多く、約4,000台(12時間交通量)の通行車両の内、約25パーセントが通過車両であることが確認されております。

特に富谷第二中学校の西側に位置する交差点は、朝の通勤車両と登校する児童生徒の時間帯が重なることから、通学路の安全対策を講じることが急務となっております。

そこで、道路管理者(富谷市)、大和警察署、国土交通省、富谷市教育委員会、地元町内会長等による「富谷市あけの平・大清水地区交通安全対策協議会」を発足させ、合同点検の実施により、対策の必要性について確認し、今後の交通安全対策に反映させるため、可搬型「ハンプ(凸部)」による速度抑制効果を検証することになりました。

なお、速度抑制効果の検証には、国土交通省が所有しているETC2.0プローブ情報のビックデータを活用します。

《位置図》



○ハンプ社会実験実施箇所 市道大清水9-2号線



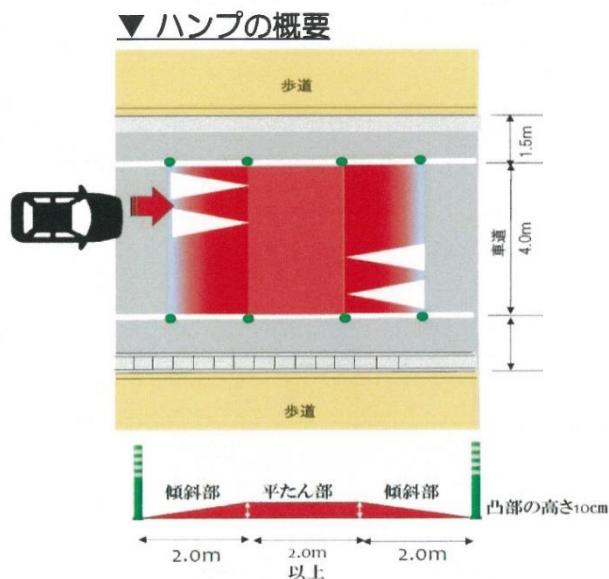
ハンプ (実験) イメージ



<大清水一丁目第1公園の入口付近に、1箇所設置します。>

《ハンプとは》

通行する自動車の速度を抑制するために道路上に設けられた台形上の突起



▼ 設置状況 (例)



※今回、実験で使用するハンプは、持ち運びできる仮設用のものです。

《ETC2.0の概要》

- ETC2.0は、道路側のアンテナ（ITSスポット）との高速・大容量、双方向通信で、運転者支援サービスが受けられるもの。
- また、同時に自動車の「走行履歴」「挙動履歴」データを収集することができ、近年の交通事故分析では、「挙動履歴」データのうちの「走行速度」、「前後加速度（急減速）」および「左右加速度（急ハンドル）」データを主に活用している。

■ ETC2.0のしくみ



ITS スポット

全国の高速道路上に約1,600カ所整備済み
ITSスポットを通過したときに双方向通信

走行履歴情報

(200m間隔に自動的に記録し収集)
時刻/緯度/経度/道路種別
一速度・経路情報が把握可能

※これまでの「ITSスポット対応車載器(カーナビ)」という呼称を、今後は「ETC 2.0 対応車載器(カーナビ)」と呼びます。

データ収集装置は、高速道路上のITSスポット約1,600基のほか、直轄国道上に約1,800基設置されている。

■ ETC2.0で取得可能な情報

走行履歴（経路）、挙動履歴（速度、急減速、急ハンドル）等の情報が得られる。



走行履歴
・時刻
・位置情報(緯度経度)

挙動履歴
・時刻
・位置情報(緯度経度)
・進行方向
・速度・ヨー加速度
・前後加速度、左右加速度

所定のタイミングで蓄積

所定の閾値を超えたタイミングで蓄積

路車通信でアップリンク

走行履歴と挙動履歴を蓄積

